

岩見沢市立岩見沢小学校

全校児童数：239名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : Qubena
アプリ : Qubena

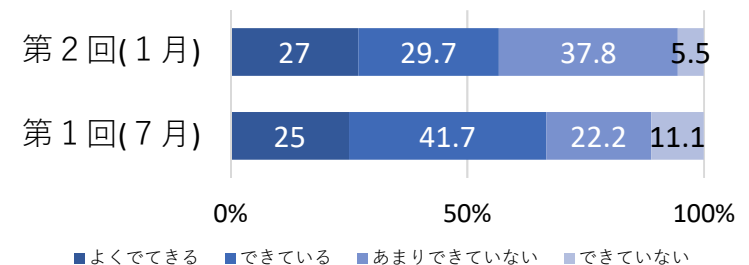
■ 取組の方法

- ・夏季休業から、学年の実態に応じて順次持ち帰りをを行い、全学年で次の取組を実施した。
 - 1 学習eポータル「Qubena」を活用した予習・復習の実施
 - 2 タブレット端末を活用した、学級担任からの連絡（学習内容の指示など）
 - 3 欠席児童への、双方向の連絡や状況確認
- ・冬季休業から、タブレット端末を活用したドリルで家庭学習を実施した。

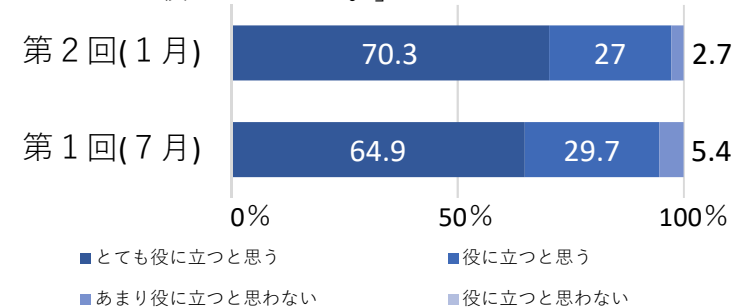
■ 児童の変容

- 自主・自律的な学習習慣・生活習慣アンケートの結果から
 - ・「家でタブレット端末等を使って勉強していますか。」の項目について、「よくしている」と回答した児童の割合が、25.0%から27.0%となり、2.0%上昇した。
 - ・「家でタブレット端末等で勉強することは役に立つと思いますか。」の項目について、「とても役に立つと思う」と回答した児童の割合が、64.9%から70.3%となり、5.4%上昇した。
- 今後の取組に向けて
 - ・ICTをより効果的に活用していくことが必要である。
 - ・児童の活用方法を広げるために、よりよい方法を紹介するなどの取組が必要である。

「家でタブレット端末等を使って勉強している」



「家でタブレット端末等で勉強することは役に立つと思う。」



岩見沢市立志文小学校

全校児童数：204名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : Qubena
アプリ : ロイロノート、Qubena

■ 取組の方法

1 タブレット端末持ち帰りに向けた環境整備及び保護者との共通理解

- ・タブレット端末を家庭で有効に活用するため、目的や効果などについて保護者に理解を求めるとともに、家庭のWi-Fi環境に係る調査及び環境整備を実施。
- ・インターネットの特性や個人情報の取扱いなど、タブレット端末の持ち帰りのルールを学校で策定し、家庭と共有するとともに、健康面の配慮について、保護者への協力を依頼。

2 タブレット端末の活用について

① 学習eポータル「Qubena」の活用

- ・児童の習熟度に合わせた問題の出題など、家庭学習の補助教材として活用。
- ・児童が進捗状況を確認しながら行える長期休業期間中のワークブックとして活用。

② 調べ学習のツールとしての活用

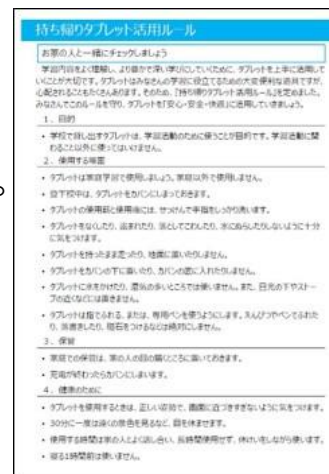
- ・授業の中で分からなかったことや、もっと知りたいと思った情報を家庭で調べるツールとしてタブレット端末を活用。

③ 学習記録としての活用

- ・音楽の演奏や体育の表現等、録画機能を用いて学習の成果を記録するツールとしてタブレット端末を活用。

④ 児童理解・相談機能としての活用

- ・おなやみポストなど、児童が不安や悩みについて相談できるツールとしてタブレット端末を活用。

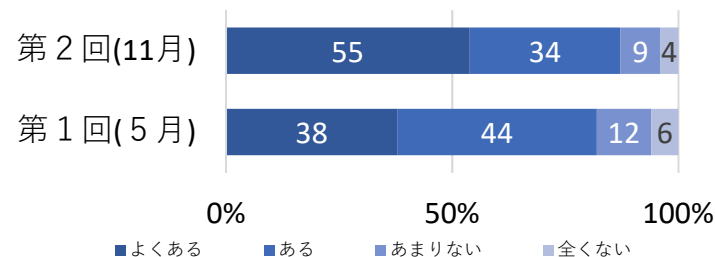


【持ち帰りのルール】

■ 児童の変容

- ・児童は、授業だけでなく家庭学習においても、タブレット端末を学習道具や教材として活用する姿が見られ、「知りたいと思ったことを、インターネットを活用して、進んで調べることがよくある」と回答をした児童の割合が、5月と比較して、17%上昇した。
- ・児童は、「ロイロノート」や、学習eポータル「Qubena」などの様々なアプリケーションを、目的に応じて有効活用している様子が見られた。

「知りたいと思ったことを、インターネットを活用して、進んで調べることがある」（児童アンケート）



愛別町立愛別小学校

全校児童数：92名 実施学年：全学年

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : スマイルネクスト、ロイロノート、
Google Workspace for Education

端末持ち帰りモデル

■ 取組の方法

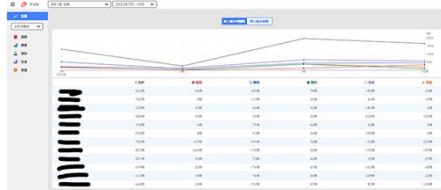
① 日常の家庭学習等の取組

- ・「Classroom」で予定や課題を通知



【予定や課題の通知画面】

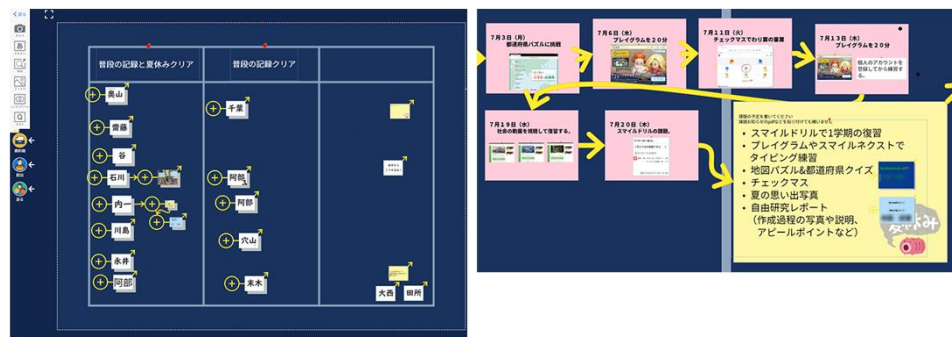
- ・ドリルアプリの課題配付機能を利用するとともに、個に応じた課題配付・取組状況を可視化



【取組状況等を可視化した画面】

② 職員間での課題内容の交流

- ・「ロイロノート」の共有ノートを活用し、教員間で進捗状況を確認するとともに、児童への課題内容を交流



【「ロイロノート」を活用し取組の進捗状況を把握している場面】

■ 児童の変容

- 自主的に課題に取り組む児童が増加
- 高学年における、端末を活用した児童相互の情報交流が増加
- 低学年における、文字入力に対する関心の向上
- 端末活用の可能性を広げようとする児童が増加

「家庭でICT機器を利用し学習したか」

